

「一部のことで決めつけないで」

おはようございます。山添洋子です。

最近、ある人から聞いた話です。その人の知人の男性は、長年にわたって、認知症でほぼ寝たきりの奥さんを献身的に在宅介護されていますが、『特養なんかに入れたら廃人みたいになる』と主張されているらしいのです。特養とは特別養護老人ホームのことです。その言葉に私はびっくりし、「その人は何をもって、そう考えるの？ 実際誰か身内の人でも特養を利用されたことがあるの？」とお聞きしました。しかし、利用されたことはなく、人のうわさやマスコミによる虐待報道などからそう思われているらしく、もしかしたら、自分の介護が正しいのだという自分への励ましなのかもしれない、とのことでした。

介護相談員として、いろいろな介護施設にお伺いして、その中をある程度見聞きしている私には、その言葉はとても聞き流せない言葉でした。確かに、特養入所者のほとんどは要介護4や5の介護サービスの必要度の高い人で、見た目には何もできない、ただ寝ているばかりに見える人が多いかもしれませんが、その方たちに施設のスタッフがどのように働きかけているか、皆さんはご覧になったことはあるでしょうか？

言葉が理解できない人にも「〇〇さん、ちょっとお布団かけさせていただきますね。」と丁寧に声をかけてから布団を掛け、車椅子の横に ^{ひざまず} 跪いて視線を合わせて「おやつの飲み物は何にしましょうね。コーヒー、紅茶、ジュースがありますけどどれがよろしいか?」、と話しかけられています。返事はありません。一人語りで、「〇〇さんはいつもコーヒーで、ミルクとお砂糖たっぷりがお好きですからそうしましょうね」と言って、ミルクコーヒーを用意してその人のペースに合わせて飲んでもらっています。入浴後には車椅子に乗った状態で、看護師さんが足の指の隅々まで点検して、家庭でなら見過ごしてしまいそうな指の間の水虫にも丁寧に薬を塗る。痛くてもかゆくてもなんの訴えもできない人たちを思い、プロの目で必要なケアをされている。「ありがとう」の一言も返ってこないけれど…。

確かにマスコミに取り上げられるような問題のある施設や職員がいるところもあるのでしょう。そこまですでなくとも、ちょっとしたことで入所者の方の尊厳にかかわるようなことを見聞きすることはよくあります。たとえば、ある施設でこんな場面を見ました。

みんながテレビ体操をしている後ろをスタッフが車椅子を押して通りました。体操のリーダーが「〇〇さんも一緒に体操しましょう」と声をかけた時、そのスタッフは「この人、今、トイレへ行かはるんや!」と大きな声で答えました。そして少し進んだところでまた「ちょっとごめん、そこのいて、この人トイレ行かはるから」と大声で。介護施設ではトイレ介助は重要な仕事で、スタッフにとっては「食堂へ行きましょう」とか「お風呂へ行きましょう」などと同じ様な言葉なのでしょうが、一般社会では

人前で、そんなことは言いませんし、言われたくもありません。そんな小さな、しかし、大事なプライバシーを守ることがおろそかになっている場面もあります。

しかし、そのような一部のことで全体を決めつけてはいけないと思います。その施設を利用している人、その家族、そして働く人達の実態を知ってほしいです。人から人へのうわさは、尾ひれをつけてどんどん大きくなっていきます。また、マスコミの力は大きな影響力があります。一つのことが世間を騒がせるようにとらえて報道されると全てがそうであるかに思われてしまうことがあります。わたしたちは物事を多角的にとらえ、しっかりした事実をもって判断する目を養わなければならないと考えさせられた出来事でした。

京都市介護相談員 山添 洋子